

統合国際深海掘削計画 (IODP) (IIS-PPG) 会議報告書

提出年月日: 平成 19 年 8 月 24 日

(ふりがな) やまだ やすひろ つじ よしひろ

氏名: 山田 泰広 ・ 辻 喜弘

所属(職名): 京都大学工学研究科准教授 ・ (独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構 R&D推進部地質探査研究課長

会議名	第 3 回 IIS-PPG (IODP/Industry Science Project Planning Group) 会議
会議期間	平成 19 年 7 月 23 日 ~ 7 月 24 日、 および見学会 7 月 25 日、ワークショップ 7 月 26 日
用務地(国・都市)	北海道 札幌市、苫小牧市(見学会)、および東京都(ワークショップ)
目的	北海道大学で開催された第 3 回 IIS-PPG 会議にメンバーとして出席し、IODP に対しての産業界の貢献の方法に関連する事項についての議論への参加と、苫小牧の石油資源開発の生産施設見学、さらに、IODP の利用に関するワークショップの開催を行った。
会議内容及び報告事項	<p>本会議は、産業界とも関連した掘削プロポーザルの作成の推進、学術と産業界のサイエンティストの対話の促進と連携の構築を目的として設置されたものである。</p> <p>報告者を除く出席者は次のとおり。</p> <p>IIS-PPG Attendees: Andrew Pepper, Hess Corp. Martin Perlmutter, Chevron Kurt Rudolph, ExxonMobil Ralph Stephen, Woodshole Ocean Institution</p> <p>Ex-Officio Attendees: Jamie Allan, NSF, by conference call on Tuesday morning Tim Byrne, Science Planning Committee Liaison Nobu Eguchi, IODP-MI Hiroshi Kawamura, IODP-MI Issa Kagaya, AESTO Hans Christian Larsen, IODP-MI Manami Ono, AESTO Toshiyuki Oshima, MEXT Manik Talwani, IODP-MI</p> <p>また、欠席者は以下のとおり。</p> <p>IIS-PPG Regrets: Richard Davies, Durham Univ. Harry Doust, Vrie Univ. Didier-Hubert Drapeau, Total David Roberts, Pipex Neil Frewin, Shell</p> <p>会議での合意事項は次のとおり。</p> <p>IISPPG Consensus 0707-01: 「ちきゅう」や「Joides Resolution」の活用について、それらの運行の財政的な観点から、年間の一定期間について IODP と別枠で産業界が利用することが議論されているが、その場合には、IODP SAS から独立した産業界のタスクフォース (ITF: Industry Task Force) を構成することを IISPPG は提案する。ITF は、石油業界からの代表者、実施機関、IODP-MI、SAS からなるものとし、IODP-MI が取りまとめる。</p>

IISPPG Consensus 0707-02: これまでのプロポーザル作成についての依頼や、IODP 掘削船の利用可能性が減ったことを考慮すると、今後さらに産業界に対して IODP 掘削のプロポーザルを作成するよう依頼することは現実的ではないと考えられる。2008 年 1-2 月に開催する IISPPG の次のパリでの会議では、ホワイトペーパーを完成させ、SAS 内にアカデミアと産業界の連絡を密にする手段（例えば、7 月 26 日に東京で開催したワークショップのようなもの）を考えるとしたい。

IISPPG Consensus 0707-03: IISPPG の産業界のメンバーは現在 IODP で使われている掘削船を産業界による掘削コンソーシアムで使う可能性を調査するが、現時点で考えられるプロジェクトは、例えば、北極海の堆積盆地の評価プログラムである。もし、IO が IODP の財政的な観点からこの実施に関心を持つのであれば、IISPPG あるいは ITF が産業界にコンソーシアムの構築を尋ねる前に、会社の決断を引き出すために次の情報が必要である。(1)北極海の氷に覆われた場所と氷の無い場所での掘削に必要な船の費用概算、(2)それぞれの船の掘削能力、(3)スケジュールと利用可能性、(4) 利用に際しての責任。これは、産業界の関心によって実施されるものであるが、アカデミアや政府機関との科学的な協力と言う点で非常に重要な機会であると考えている。

IISPPG Consensus 0707-04: IISPPG は、SPC が Andrew Bell (Shell)を新たに IISPPG のメンバーとして認めるよう提案する。

IISPPG Consensus 0707-05: IISPPG は、SPC と各国の担当機関が IISPPG メンバーの旅費の支払いについて整理してくれるよう要求する。IISPPG をより有効にするためには、多くの国営石油会社の参加を必要としているが、旅費の負担についての議論は IISPPG で行うべきものではない。

IISPPG Consensus 0707-06: IODP による急速な気候変化についてのワークショップに対して、産業界からの参加があるよう推奨する (Kurt Rudolf)。

IISPPG Consensus 0707-07: AAPG、GSA、EAGE で技術セッション、あるいはパネルディスカッションを行うことを提案する (Kurt Rudolf、Andy Pepper、Marty Perlmutter が検討)。

そのほか、ホワイトペーパーの進捗として、リフト縁辺域に関するプロポーザルが提出されたこと、中生代の古海洋と根源岩についての準備が出来ていること、北極海での掘削についての詳細な検討が進められていることが報告された。また、IODP のデータ管理に関して、IODP-MI から現在開発中の SEDIS のデモンストレーションがなされたことから、IISPPG では、今後、本件に関して特に行動を取らないこととした。さらに、産業界の所有するデータをプロポーザルの作成や掘削の事前評価等に活用することについては、会社の守秘義務のこともありケース毎の対応であるべきと考えられることから、IISPPG の関与は特に必要ないと判断した。

25 日は、午前中に石油資源開発(株)のご厚意により、苫小牧の同社勇払ガス田の見学を行い、石油システムや生産施設についての説明を受けた。

26 日には、東京の海洋開発機構の会議室において IODP の利用についてのワークショップを開催した。大学、石油会社、研究機関から 10 件の講演があり、参加者は、石油開発会社、大学、国立研究機関、調査会社などから計 63 名であった。それぞれの講演は非常に良く準備され、質疑を含め議論が活発に行われた。

事務局又はJ-DESCへのご要望・コメント等

札幌の IODP-MI オフィスでの会議のアレンジにつきましては、いろいろとお世話をお掛けしました。

また、東京 JAMSTEC オフィスでのワークショップ「IODP データの石油探鉱への応用」の開催に際しては、AESTO の方々に、アレンジその他で非常にお世話になりました。同ワークショップについての、海外の IIS-PPG 委員などの印象も非常に良く、引き続き同様の機会を持ちたいとのコメントを貰っています。